

W I L C O M M

User Exit (OUTQ Interceptor) 訳

AS0003 (Last Update : 2002/5/7)

WilComm AS400 V7.15

© Copyright 2000

K.I.S.S. Inc.



User Exit (OutQ Interceptor)

概要

WilComm OutQ Interceptor の標準ロジックにおいてユーザー定義プログラムを起動するポイントが設けられました。このポイントで、特定のスプールファイルに対しユーザー定義プログラムを起動することができます。呼び出されるユーザー定義プログラムで、テキスト化されたスプールファイルを操作し、情報の検索・加工が可能となります。

ユーザー定義プログラム内では、主に Wilspool API のコマンドを使用して処理を行います。コマンドの使用は、処理要件によるもので、必須ではありません。こういった仕様でユーザー定義プログラムを作成したらよいのか、という疑問を解決するために、サンプル用のソースコードが提供されています。

Note: WilSpool APIコマンドの組み込み、WilCommの主要機能と統合が行われたことによって、User exit 機能により、帳票を複数フォームで、または複数の帳票を配信するための前処理を行うことが可能となっています。

ユーザー定義プログラムにより処理されたスプールテキストは、後続の WilComm の標準処理、または WilSpool API コマンドにより送信処理されます。あるいは、特定のスプールに対しては、メッセージ送信を行わないという処理も可能です。この処理は、継続処理パラメーターの設定で、WilComm の後続処理を行わないようにすることで可能となります。

User Exit を使用する典型的な処理-

- 既存の帳票出力プログラム内での出力ロジックの変更が困難な場合、User Exit機能側でWilSpool APIコマンド等を使用することで間接的に帳票加工を行い、必要とされる要件を実現することが可能となる場合。
- 既存プログラムの処理外で処理を行うことが要求される場合。
- スプールファイルに対する追加の内容検索、加工が必要とされる場合。
- スプールファイルのページの入れ替えを行いたい場合。例えば、請求明細を2ページ目から1ページ目に入れ替えたい場合。
- 複数のスプールファイルからのページを、1つの送信にまとめる場合（FAX、メール、プリント）。この処理を行う場合、各ページ内にまとめを行うためのキー情報が必要となります。

User Exit と処理の多様性を最大限にするために、1つのオプションがプログラミンマーに提供されています。 -

- インターセプター機能での継続処理；
-
- インターセプター機能のバイパス

この機能を使用することで、スプール中の必要とされるページのみを処理することが可能となります。（ユーザープログラム内で、インターセプター側に処理を投げる前に不要ページの除去を行います。）

“ユーザー定義プログラム”サンプル

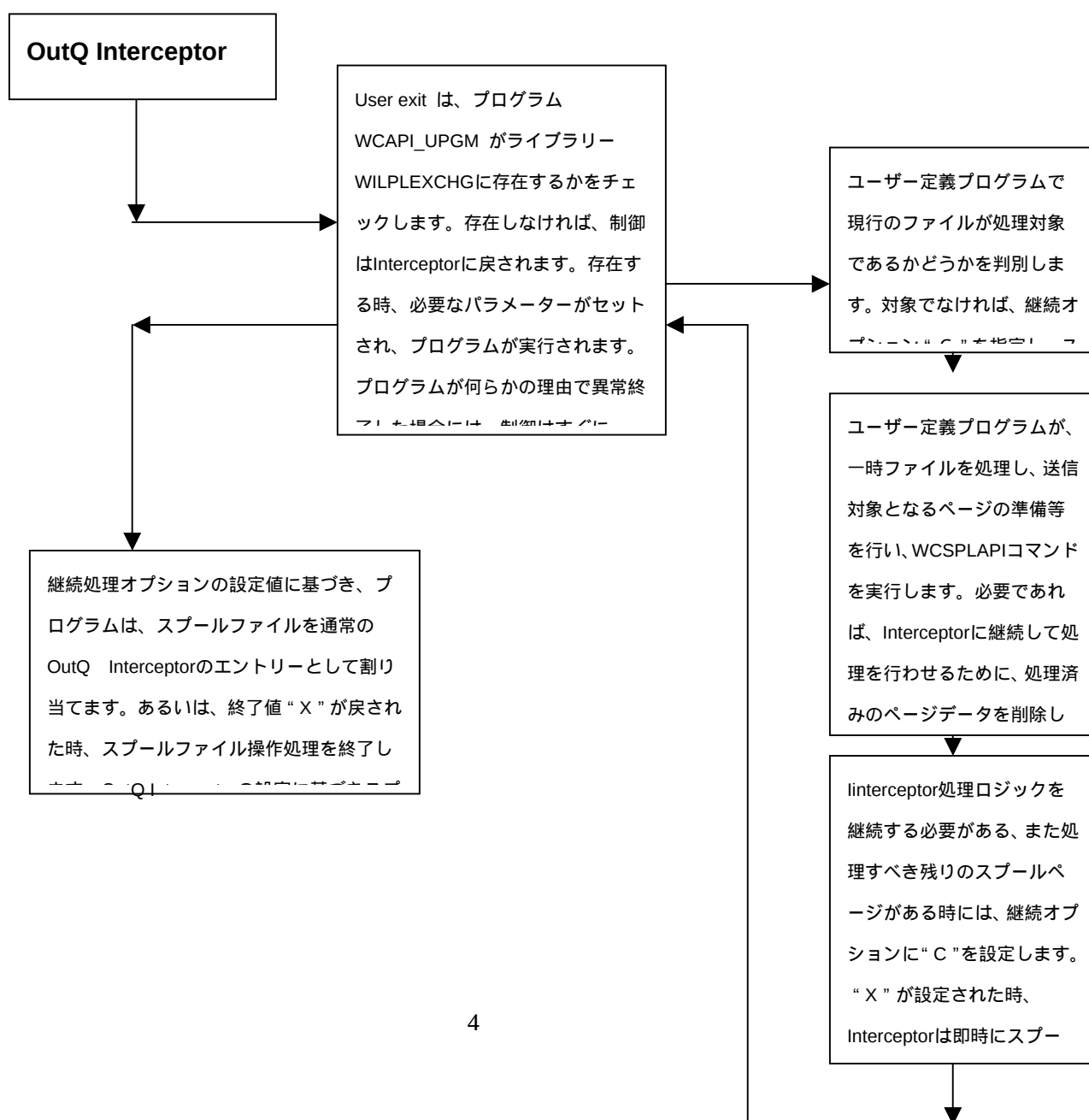
プログラマーの参考となるサンプルが提供されています。特定の処理要件に対する開発の基本部分を提供します。WilComm は、処理対象のスプールを認識するために多くのパラメ

ーターを使用します。このパラメーターにより、抽出されたスプールファイルのデータを含み、処理の対象となる一時ファイルが決定されます。

サンプルは、通常必要とされる機能以上の仕様を盛り込んでおり、この機能を説明するには十分なものとなっています。

以下の図は、User Exit 機能がどのように OutQ Interceptor 処理に組み込まれているか、User Exit 機能が以下に制御されるか、提供されているサンプルプログラム内の処理ロジックを示します。

図では、対象のスプールファイルは、OutQ Interceptor で処理される OutQ に出力され、既に送信処理の対象とされている状況を想定しています。



サンプルユーザー定義プログラムの概要

サンプルプログラム WCAPI_UPGM (他関連プログラム)は、ソースファイル WILPLEX/WILSAMPLES の中にあります。この一連プログラムは、OutQ Interceptor User Exit においての標準的な処理を行うよう作成されています。

サンプルプログラムは、ある顧客からの、複数ページスプールファイルをページ毎に異なるフォームにマージし、1回の送信として FAX を行いたいという要件に対応して作成されています。

スプールファイル中では、種々の全く異なったフォーマットで出力が行われており、これを要件に合わせ、ページ毎に所定のフォームに関連付けします。サンプルでは、スプールファイル中の連続したページが1社の顧客向けに送信設定され、オプションとして、同一の追加コピーが関連顧客にも送信設定されます。

WilComm フォームマージ機能は、複数ページ添付処理をサポートします。サンプルでは、個々のページグループに対して、宛先アドレス/サブスクライバーとフォームタイプの設定値が与えられ送信設定が行われます。サンプルプログラムはスプールファイルデータを読み込み、先頭4バイトの印刷出力制御コードを使用し、スプールデータをそのまま、また加工を施してテキスト形式のファイルを作成します。

ページの内容に基づき、WCSPLAPI コマンドを実行し、新規のアタッチグループをオープンする前に、プログラムは宛先、そしてフォームタイプを決定します。そして、アタッチメント、サブスクライバーがアタッチメントリストに追加されます。

フォームタイプが変更され、サブスクライバー/宛先アドレスには変更が無い時、前回のアタッチファイルはクローズされ、新たなものが追加されます。サブスクライバー/宛先アドレスに変更がある場合は、前回のアタッチファイル、アタッチグループがともにクローズされます。この時点で、バックグラウンド処理機能が必要なメッセージを作成し、これを WilComm のメッセージマネージャーに割り当てます。

以下に、標準的なプログラムロジックを示します。:

